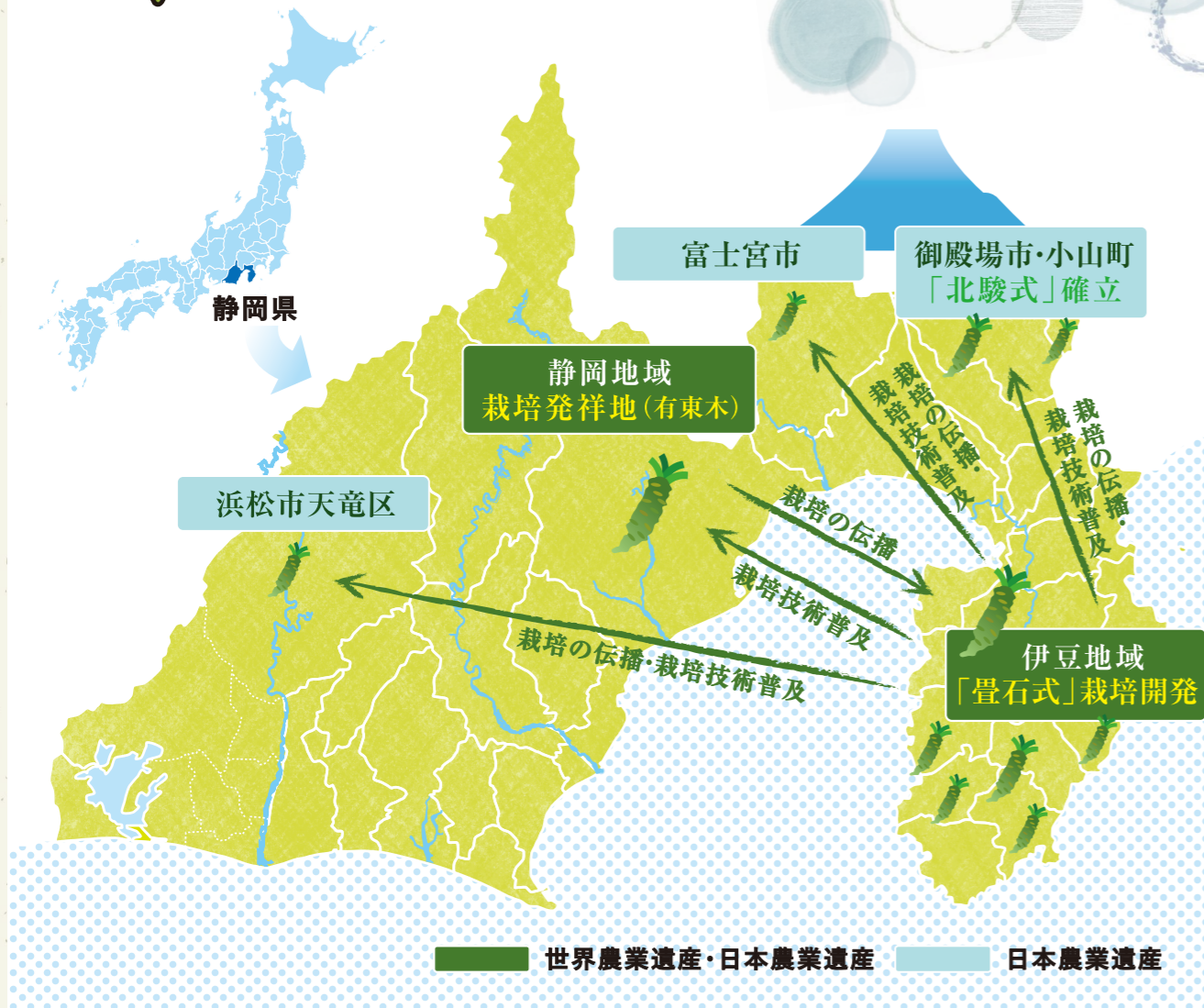


農業遺産とは

農業遺産は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、伝統的な農林水産業を含む地域（農林水産業システム）を認定する制度であり、国連食糧農業機関（FAO）が認定を行う世界農業遺産と、農林水産大臣が認定を行う日本農業遺産があります。



「わさびのさびちゃん」



静岡水わさび

世界農業遺産

静岡水わさびの
伝統栽培
日本農業遺産



静岡水わさび

静岡わさび農業遺産推進協議会

静岡市、浜松市、富士宮市、御殿場市、下田市、伊豆市、東伊豆町、河津町、松崎町、西伊豆町、小山町、静岡県、静岡県山葵組合連合会、JA静岡経済連、JA伊豆太陽、JA伊豆の国、JA御殿場、JA富士宮、JAしみず、JA静岡市

事務局：静岡県経済産業部農業局農芸振興課

TEL.054-221-3299 Email.nogei@pref.shizuoka.lg.jp HP. https://www.shizuoka-wasabi.jp/





撮影：カダツムリプロダクション

和食に欠かせない食材

わさびは日本の固有種で、19世紀初頭、握り鮓に利用されるようになり人気となりました。以降、和食にはなくてはならない香辛料となり和食文化の発展に貢献しています。最近では肉料理にも用途が広がるなど、世界が注目する食材になっています。



発祥の地が伝える 人とわさびの歴史

わさび栽培発祥の地と 畳石式わさび田

わさび栽培は、今から400年以上前に現在の静岡市葵区有東木で始まり、栽培発祥の地とされています。1607年駿府城で晩年を送っていた江戸幕府の初代将軍徳川家康は、献上されたわさびを気に入り、有東木から門外不出の御法度品としたという言い伝えも残されています。

1892年(明治25年)頃、現在の伊豆市で開発された「畳石式わさび田」は、下層の大きな岩から上層へ徐々に石を小さくし、わさび田表面と内部に水を通す



ことで、水温の安定と栄養分や酸素の供給を実現し、安定生産を可能にしました。これらの栽培方法により、高品質なわさびを生産し、一年を通して全国に出荷しています。

畳石式わさび田のしくみ



日本一のわさび産地

静岡県のわさび栽培は、安倍川流域や伊豆半島など、豊富な湧水に恵まれた地域に広がり、各地で独自の発展を遂げました。現在では、生産量、栽培面積、産出額ともに日本で、特に産出額は全国シェアの7割を占めるなど、高い地位と品質を誇ります。わさびは山間地において高い収益を誇る基幹作物であり、農家や企業による加工品作りも盛んで、農家の所得向上や地域振興に大きく寄与しています。



優れたランドスケープ

常緑のわさび田は山間地の森林に溶け込み、四季を通じて優れた景観を生み出しており、今後は新たな観光資源としても注目されています。



生物多様性を育む農法

わさび栽培は、肥料や農薬を極力使用しないため、環境負荷が少ない持続可能な農法です。急峻な地形の山間地にあつて、水の流れを緩やかにするわさび田は、多くの水生生物が繁殖する場を提供し、周辺の森に多くの鳥類などが生息する環境は、環境教育の場としても重要です。



ハコネサンショウウオ

小学生収穫体験